

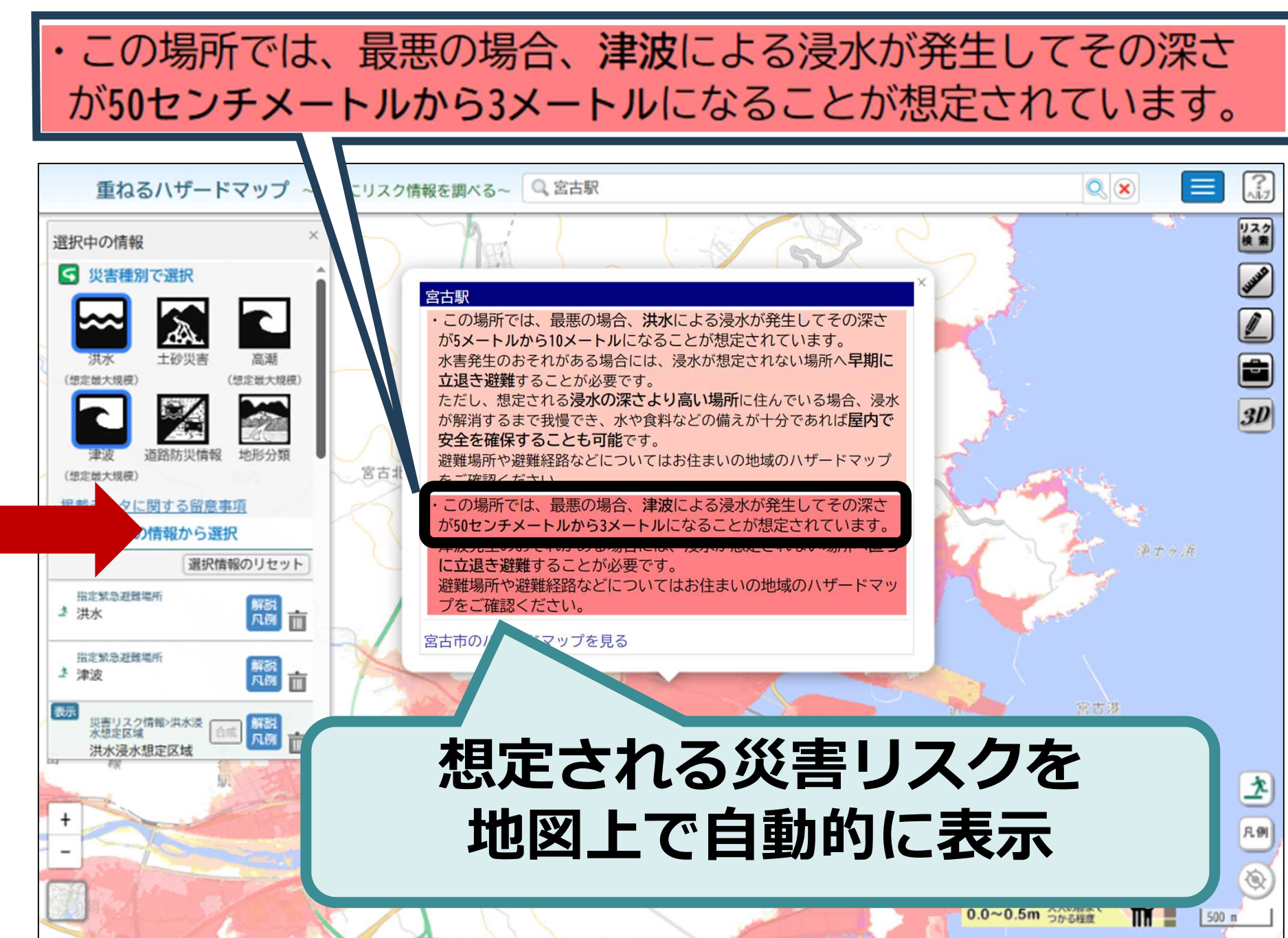
ハザードマップポータルサイト

■目的

本サイトを活用することで、国民一人ひとりに身近にひそむ災害リスクを知ってもらい、災害に備えるとともに避難に役立てていただくことを目的としています。

■概要

- 本サイトは、パソコンやスマホから誰でも利用でき、国や都道府県が作成した災害リスク情報を地図に自由に重ねて閲覧できます。
- トップページに住所を入力する等により、調べたい場所の災害リスクが地図上に自動的に表示されます。



◎どうやって使うの？

1. 検索エンジンで「ハザードマップ」と検索
2. 「ハザードマップポータルサイト」で住所を入力または現在地から探す

■活用方法

活用例① その土地で起こりうる自然災害を考えることができます

地形分類（自然地形）



旧水部
液状化のリスクが大きく、沿岸部では高潮に注意。

旧河道
かつて河川の流路だった。水はけが悪く、地盤が軟弱。

地震時の液状化に注意

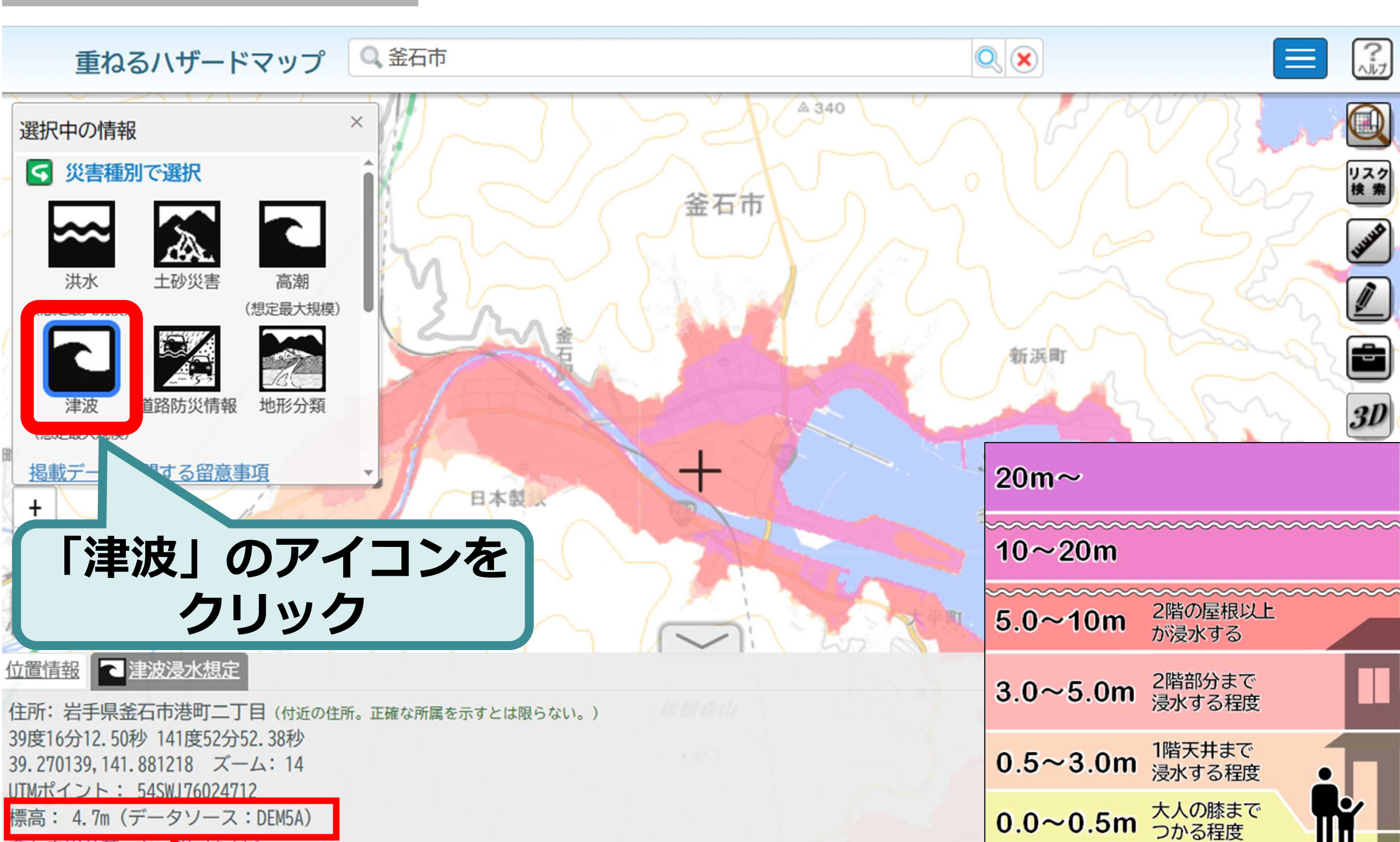


◎「地形分類（自然地形）」とは？

地形分類は、その土地の成り立ちや形態などによって区分したものです。その土地が本来持っている自然災害リスクを、地図上をワンクリックすることで確認できます。

活用例② 津波の際に想定される浸水深とその範囲がわかります

津波浸水想定



海底下で地震が発生すると、津波が襲来するおそれがあります。

ハザードマップポータルサイトで自宅や身のまわりの

- 津波浸水想定
- 標高

を事前に確認し、避難に役立てましょう。

地震時の津波に注意

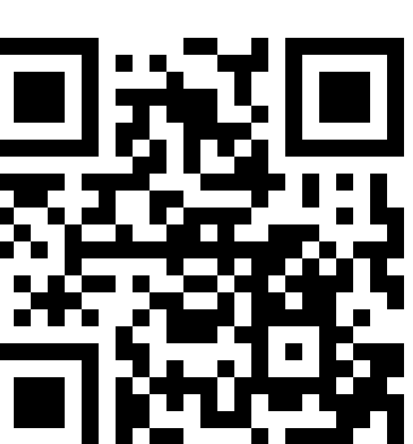


標高：4.8m（データソース：DEM5A）（中心十字線の地点の標高が表示されます）

◎どうやって確認するの？

1. 「津波」のアイコンをクリック
2. 地図画面上に「津波浸水想定」が、ページ下部に「標高」が表示される

ハザードマップポータルサイト
<https://disaportal.gsi.go.jp/>




指定緊急避難場所データ

目的

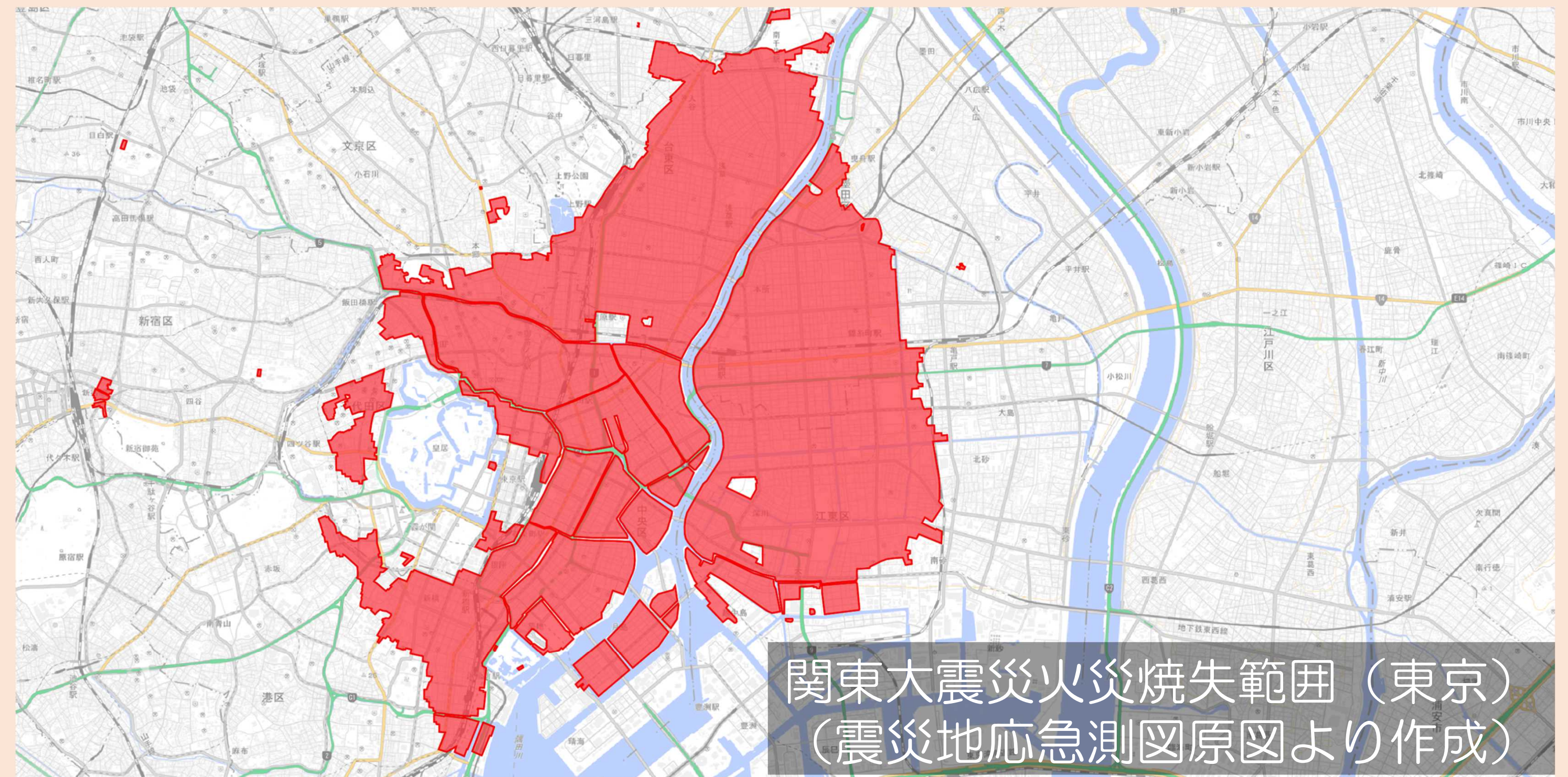
災害時の円滑かつ迅速な避難に役立ててもらうため、平成25年6月改正の災害対策基本法に基づき市町村が指定した「指定緊急避難場所」のデータ整備を進めています。

概要

- 指定緊急避難場所は、災害による危険が切迫した状況で、命を守るために緊急に避難する場所です。災害種別ごとに指定されており、各災害に対応する指定緊急避難場所に避難します。
- 整備が済んだ市町村の指定緊急避難場所データを、パソコンやスマートフォンで利用できる「地理院地図」で見られます。
- 地図上にアイコン  が表示され、クリックすると、名称や住所、対応している災害の種類を確認できます。

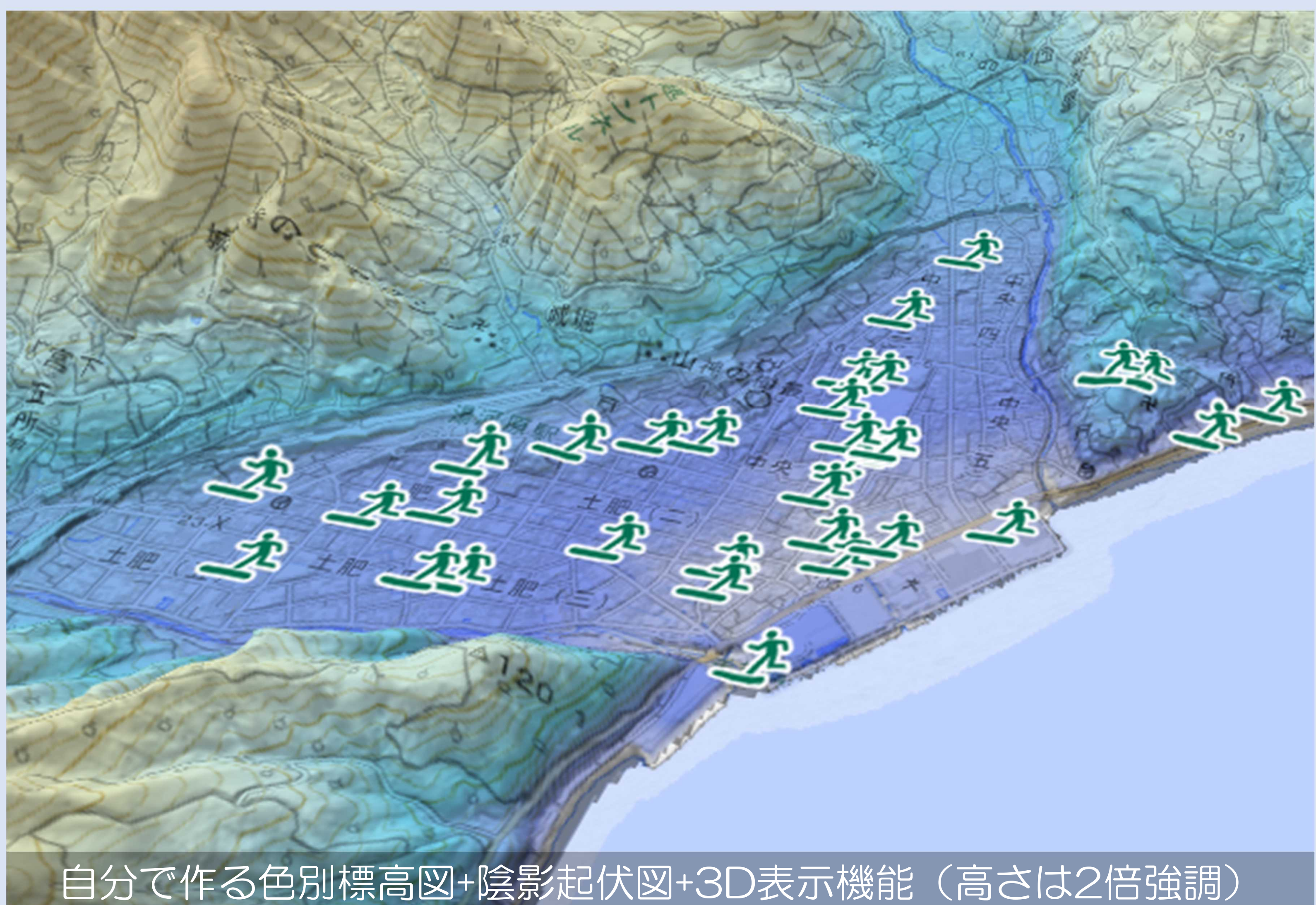
活用方法

活用例① 地震による大規模な火災から避難する



建物が密集すると、地震により火災が発生した際、延焼のリスクが大きくなり、避難も困難になる危険性が増します。関東大震災では延焼が広範囲に及び、大きな被害が発生しました。地震火災時には、大規模な火事に対応した指定緊急避難場所に避難する必要があります。

活用例② 地震による津波から避難する



海やその近くで地震が発生すると、津波が襲来する可能性があります。関東大震災では、伊豆半島東岸を中心に、家屋が流されるなどの津波災害も発生しました。津波に関する情報が発表された際は高台へ避難し、海岸部で近場に高台がない場合は、指定緊急避難場所の指定の場所に避難しましょう。

①国土地理院HPの「防災・災害対応」にアクセス
②「指定緊急避難場所データ」→「指定緊急避難場所を見る」の順にクリック
③免責事項を読み「OK」をクリック

国土地理院HP 指定緊急避難場所データ
<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/hinanbasho.html>

